地歴公民（日本史）　早稲田大学　商学部　1/1

＜全体分析＞

試験時間　60　分

解答形式
マーク式 49 問　（語句選択 23 問　正誤判定 25 問　年代整序１問）　記述式９問　論述式１問(30 字)
合計 59 問

分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・[変化なし]・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・[変化なし]・やや難化・難化）
大問数６題、小問数 59 問は変化なし。正誤判定問題が２問減少し、語句選択問題と記述式が１問ずつ増加した。正誤判定問題は例年同様に「２つマークせよ」「すべてマークせよ」の形式が出題された。

出題の特徴や昨年との変更点
大問と時代の構成は例年通り、１が古代、２が中世、３が近世、４～６が近現代である。史料問題と正誤問題が多いことが商学部の特徴である。論述問題のテーマは、経済分野から出題されることが多い。

その他トピックス
特になし。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント(設問内容･答案作成上のポイントなど)	難易度
1	語句選択 正誤判定	磐井の乱･壬申の乱･恵美押勝の乱　《史料》	問Dはやや難。問E「不破」は美濃、「愛発」は越前というそれぞれ史料のキーワードから判断したい。	標準
2	語句選択 正誤判定	悪党･建武の新政･観応の擾乱　《一部史料》	問Aはやや難だが、史料や解説文を読み正解したい。問ＥもＹの判定が難しく、やや難。問Gはやや難。４も誤文とは言い切れず疑問が残る。問Ｊは難。	難
3	語句選択 正誤判定 年代整序	百姓一揆物語にみる仁政　《一部史料》	問Bはやや難。「新潟」と「博多」で迷ったかもしれない。問Ｉと問Ｊは史料をよく読んで正解したい。	やや易
4	語句選択 正誤判定	隈板内閣の成立　《史料》	「伊藤大隈板垣会見録」を素材とした史料問題で、史料をよく読んで３人の人物が確定できれば、全体として易しかったといえる。問Ｊは２の「輔弼者」という表現で少し迷ったかもしれない。	やや易
5	正誤判定 記述	Ⅰ日露戦後～1920 年代の経済と社会 Ⅱ明治時代の芸術	問Ｅはやや難。問H「滝廉太郎」を正確に記述できたであろうか。	やや易
6	語句選択 正誤判定 記述 論述	高度経済成長期の社会と経済	問Bは「東京タワー」がテレビの電波塔であることを知っていれば正解できただろう。問Ｆは「消費革命」や「流通革命」の時期判断が必要で、やや難。問Ｈはやや難。戦後の文学史まで学習ができていたかで差がついただろう。問Ｉもやや難。	標準

※難易度は5段階「易･やや易･標準･やや難･難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

むやみに知識量を増やすような学習では合格レベルに達しない。合格するには入試問題の形式･難度を知るために過去問研究を行う必要がある。一般的に受験生が苦手とする正誤判定問題や論述問題での得点力をアップさせるため、用語暗記にとどまらない、出来事の背景･理由や結果･影響などについて理解を深める学習を心がけよう。さらに論述問題対策として、近現代の経済分野を中心に、日頃から簡潔かつ論理的に内容をまとめる練習を積極的に行おう。また、得点の差がつきやすい文化史分野についても早い段階から学習を進めておこう。近年の戦後史は終戦直後～高度経済成長期が頻出であり、今後も注意が必要である。

© 河合塾　2024 年